荒川の始まり　～荒川の起点と源流点～

荒川の最初の１滴は奥秩父連山の主峰「甲武信ヶ岳」からしみ出ています。

荒川のはじまり　甲武信ヶ岳

甲武信ヶ岳

甲武信ヶ岳

荒川１７３kmの起点の碑

荒川のはじまり

荒川の源流点は、山梨県、埼玉県、長野県の3県にわたる標高2475mの奥秩父連山の主峰、甲武信ヶ岳です。山頂近くからしみ出た一滴一滴が、やがて荒川へと広がっていくのです。 甲武信ヶ岳に降った雨は荒川の他、千曲川（信濃川）、笛吹川（富士川）といった日本を代表する川をつくり出しています。

源流点の他に荒川には起点が存在します。荒川の幹川流路延長173kmとされていますが、その管理起点である173k地点は、２つの水流（入川と赤沢）が合流する場所になります。

▶ 荒川源流点は本格的な登山

荒川最初の一滴である源流点は、甲武信ヶ岳山頂から埼玉県側にすこし下ったところにあり、その横には源流点の碑が建てられています。

甲武信ヶ岳は、その名前のとおり甲斐（山梨）・武蔵（埼玉）・信濃（長野）の三国にまたがり、三つの大河（千曲川・荒川・富士川）の源流が湧き出す山です。埼玉側の起点の碑から甲武信ヶ岳へ向かう所要時間は9時間以上（環境省・埼玉県看板より）となっており、荒川源流点へ向かうには長野県、山梨県側からのルートが一般的です。

源流点の碑

▶ 荒川起点は日帰りハイキングコース

荒川には最初の一滴である源流点の他に、管理起点が存在します。荒川の幹線流路延長は173kmとされていますが、その上流端にあたる地点、入川と赤沢が交わる場所が荒川起点となっています。

この荒川起点までは、秩父鉄道の終着駅である三峰口駅から、バスで川又バス停まで約35分※で行くことができます。

川又バス停から起点まで荒川沿いに歩く、片道約2時間のハイキングコースにもなっています。

途中にはレールや枕木が出てきて、その上を歩いていきます。これは昭和23年から昭和45年までの間、重い木材を満載したトロッコが走っていた道で入川軌道と呼ばれていました。

その他にも入川渓流の観光釣場や小さな滝や大木、荒川の浸食によってできた渓谷など見どころがたくさんあります。

※　秩父市HP秩父市内路線バスのご案内より

荒川を眺めながらのハイキング

入川軌道

コラム　源流付近の荒川の地形　浸食によりできたV字谷

荒川源流付近では、荒川の支川豆焼川の浸食により、橋から谷底まで100m以上もある深いV字の渓谷が出きています。

国道140号は、埼玉・山梨両県を結ぶ唯一の国道ですが、かつては雁坂峠を挟み登山道以外での行き来が不能となっていたことから「開かずの国道」と呼ばれていました。

1998（平成10）年に雁坂大橋、雁坂トンネル、豆焼橋が開通し、埼玉・山梨両県の自動車による往来が可能となりました。

V字谷に架かる雁坂大橋

アクセス

荒川源流点の碑

甲武信ヶ岳山頂から30分ほど下った標高2200m地点

荒川起点の碑

秩父鉄道「三峰口駅」下車、西武観光バス「M6、M7中津川線」乗車、「川又バス停」下車、徒歩約2時間

出典　秩父市HP／環境省・埼玉県「現地看板」／川上村HP